2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 3 日

所属	商経学部	職名	准教授	氏名	越川 靖子
研究課題	ブランドネームにおける日本語の影響と日本語の印象についての研究				
研究キーワード	ブランドネーム、日本語、五十音、音象徴	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	4. 質の高い教育をみんなに	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

2023 年度も引き続き大規模アンケート調査を行ったが、昨年度委託した調査会社のデータの質が良かったため、本年度も依頼した。2022 年度の反省点を含めて、担当者と綿密に打ち合わせを行い実施した。前回の基準を用いることができたため、早めにデータ収集を行うことができた。しかし、データ整理に時間がかかってしまったため、2024 年 1 月から論文作成に入ったため現時点ではまだ論文が完成しておらず、発表するところまでは進まなかった。2024 年度はこの失敗や問題点がわかっていることから、円滑に研究を進めることができるといえる。2023 年度は清音の与えるイメージの調査を行ったが、各年代で違いに大きな違いがあるものが少数見られた。2024 年度は濁音・半濁音・拗音の調査を行った。清音と比べるととらえ方に違いがかなりあり、特徴といえる点が多くみられた。また、類似の傾向をみせる年代があり、これらから 2024 年度の調査に生かすことができそうである。

一方で、自身の興味や関心の一つである地域やまちづくりの研究では、一つの研究会の長を任せられかつ 3 本の発表を行った。「まちにおけるファッションとファッション化の問題について」は 2024 年度に論文発表をすべく取り組んでいる。次に「地域におけるソーシャルキャピタルトアクターの考察」では、論文として 2024 年 3 月末に刊行された学会誌に採用・掲載された。最後に、「『祭り』の違いについて-国内・国外・ネットより-」を基にして、2024 年 9 月刊行予定の共著の 1 章を執筆した。

2023 年度の研究から、今後の研究への示唆や見通しを得ることができた。2024 年度は、科研費によって取得したデータを基に論文を執筆・発表を行う予定である。外国誌ジャーナルへの投稿および外国学会での発表をすべく取り組むことを予定している。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文 (査読あり)】

「ソーシャル・キャピタルにおけるアクターズネットワークのモデリングを目指して-拡大と縮小の事例から-」、『地域デザイン』地域デザイン学会、第 23 号、2024 年 3 月 31 日

「第 8 章 寺社における地域デザインの新視覚-空間用途の関係編集によるカーニバルの価値発現-」『地域価値発言方法の多様性』2024 年 9 月刊行予定 (2024 年 1 月末日提出)

【著書・論文 (査読なし)】

なし

【学会発表等】

・「まちにおけるファッションとファッション化の問題について」、地域デザイン学会第 1 回シティ・エンターテイメントフォーラム、2023 年 6 月 24 日、日本経済大学大学院 11 号館

・「『祭り』の違いについて-国内・国外・ネットより-」、地域デザイン学会、第 2 回地域アート&フェスフォ

ーラム、2023年11月18日、日本映画大学白山校舎

・「地域におけるソーシャルキャピタルトアクターの考察」地域デザイン学会合同地域部会第4回、2024年1月20日、専修大学神田キャンパス7号館

3. 主な経費

科研費基盤研究（C）による調査から追加が必要になり、アンケート業者委託費に使用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【科学研究費】

・基盤研究（C）：令和4年度～令和7年度、代表者、課題名「五十音音象徴の体系化への挑戦」（22K01767）

【その他の活動】

- ・地域デザイン学会フォーラム委員
- ・地域デザイン学会、学会理事
- ・マーケティング史学会、論文編集委員

（本文は2ページ以内にまとめること）